

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和三年五月度 入賞句一覧 投句数 五百七十三句



特選

度会 さち子 選

やはらかき光を弾き猫柳

大垣市 新町 恵子

猫柳は川辺に多い。銀ねず色のおわず触れたくなるようなつややかな猫柳。川波も猫柳のように、やはらかく春の光を弾ききらきらとまぶしい。川音もやさしいのだろう。おだやかな早春の川辺の情景をとらえた。

嬰を抱く青年すがし柿若葉

安八郡輪之内町 野村 照子

最近スパーや公園、街角でも赤子を抱いているお父さんは珍しくない。普通の光景である。それをみる作者の子育て時代を考えると、うらやましくもある。光り輝く、みずみずしい柿若葉の下で赤子を抱く澁淵とした若いお父さん。時代は変わってきているのだ。

十年を経たる瓦礫や鳥帰る

愛知県豊田市 城山 悠水

あの東日本大震災から十年目にあたる。平成二十六年の蛤塚忌に迎えた高野ムツオ氏の句を思う。『泥かぶるたびに角組み光る蘆』いまだに片付かない瓦礫。だが、自然のいのちはいつもものように巡り、人は生きてきた。鳥には帰るところがある。だが、死者のたましいは、変わり果てた大地に帰る場所をみつけられたのであるうか。

秀逸

菓子箱にグリコのおまけ昭和の日

大垣市 早筈 千恵子

てつぼうがつめたくないぞもう春だ

不破郡垂井町 中嶋 結映

ふらここを漕ぐ落日の中へ漕ぐ

岐阜市 堀江 美州

竹林のすけて眩しき初夏の朝

大垣市 松岡 みつ

夏きざすグラスに伝ふひと滴

大垣市 宮脇 和子

涅槃図に入らむ駱駝に待たれりて

埼玉県川口市 吉永 寿美子

新緑の静寂へ電車すべり込む

大垣市 和田 勝子

波にゆれ光にゆれて花見船

岐阜市 花川 和久

青麦やマスク真白に登校児

安八郡神戸町 高橋 泰

隣家より嬰の泣き声うららけし

大垣市 村瀬 佐智子

入選

一般の部

風にのる子等のハモニ力沈丁花

養老郡養老町

佐藤 咲楽

伊吹背に蓬つむ手は草の色

大垣市

香田 末代

風に舞う花びらを追い吾子も舞う

大垣市

鹿野 三地代

乳房含む子猫の産毛風かすか

大垣市

早筈 千恵子

新任の教師は清楚花わさび

大垣市

松岡 みつ

風にゆれ夕日に白し雪やなぎ

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

追悼の桜薬降る地震の町

岐阜市

田中 淳子

タブレットに花片操作覚えたて

不破郡垂井町

小坂 久美子

指先で回す地球儀目借時

大垣市

小林 研

初夏の風を袂に僧侶ゆく

大垣市

坪井 克枝

初夏や谷戸に人影鳥の声

大垣市

田中 雅子

風光る園児の放つ千の稚魚

大垣市

傍島 豊子

美濃近江国をまたいで蕨摘む

不破郡垂井町

西田 厚堂

涅槃図や御堂の闇に浮き上がり

神奈川県川崎市

立野 音思

山葵沢雲水の足白かりき

岐阜市

桐山 なほ美

うぐひすの声聴きとどむ筆の先

三重県四日市市

後藤 允孝

木製のベンチやわらか花の塵

大阪府東大阪市

森 佳月

水温む鯉の口元丸く開く

大垣市

森 茂寿

うららかや赤子の尻のつるつると

福岡県福岡市

大津 英世

選者吟

清潔な鳥ごえ数へ五月くる

さち子

